

学力向上を実現する 授業改善のために その1

学校教育課通信

平成27年7月14日(火) 第116号

編集・発行：県南教育事務所 佐藤 晃

初めて教壇に立つ新採用教員や経験の浅い講師を対象に行った「スタートアップ訪問」が6月で終了し、小・中学校合わせて48回実施しました。また、6月30日までに「計画訪問」を9回(幼稚園1園、小学校7校、中学校1校)、「要請訪問」を46回(延べ39校)実施してきました。

これまでの訪問で、先生方のいいねいな学級経営や深い教材研究に支えられ主体的に学ぶ児童生徒の姿を数多く見ることができました。しかし、基本的な指導技術をさらに高めること、思考力や表現力を育む言語活動を見つめ直すことなど多くの課題も感じました。「授業改善」につなげるため、この時期「振り返り」を大切にしたいものです。

板書計画で授業をつくる、板書で授業を振り返る。

今年度、県南教育事務所の重点の一つとして「板書計画を生かした授業づくり」を提案しています。板書の機能を生かして充実した授業づくりを目指しましょう。「日々の授業のブラッシュアップ vol.1 (平成18年 福島県教育委員会)」の中では板書について次のよう書かれてあります。

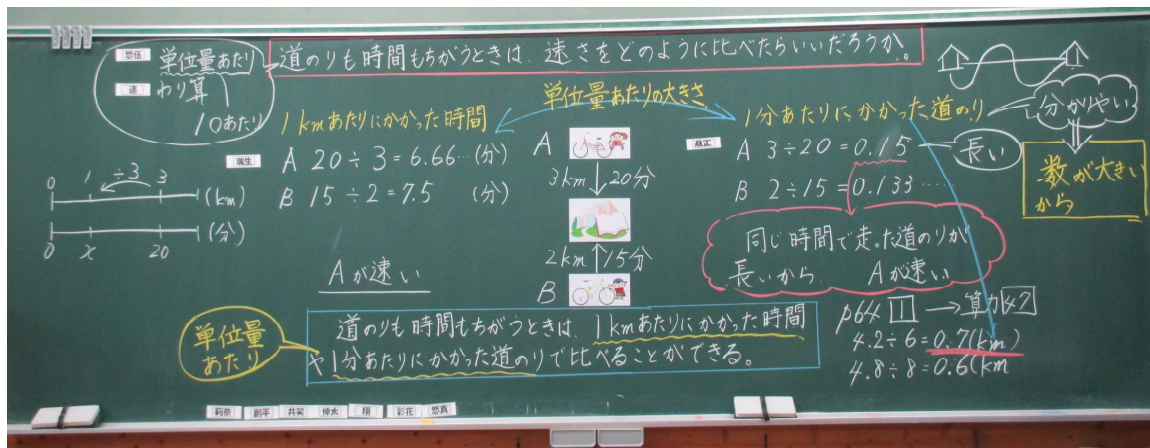
- 教師が書く板書の文字は、子どもたちの書く文字の手本です。
- 板書は、教材研究の深浅や教師の性格まで写す鏡です。
- 板書を構造的にすることにより、子どもたちに考え方を身に付けさせていくことができます。
- 授業はみんなで創るという意識を育て、共に学ぶことのよさを感じさせます。

※ 小学校算数科の板書事例 (板書及び考察資料提供 塙町立笹原小学校 戸井田 修 教諭)

〈板書計画〉



〈実際の授業の板書〉



〈板書計画による授業の意図〉

- 「速さ」の学習で、本時のねらいは「速さの意味と比べ方を理解する。」ことです。授業者は、黒板の中心に重要な概念を書き、考え方を比較できるように左右に分けて整理しようとしています。また、子どもたちの発言をふきだしにしたり、矢印を用いて考え方をつないだりして、思考を「見える化」しようとしているところに工夫が見られます。

〈実際の板書からの授業考察〉

- 授業者は、実際の授業板書から次のように分析をしています。

- ・ 左と右に問題の解決方法を板書することで、「共通するところは何か」という発問に対し、「単位量あたりの大きさで比べている」という共通点に気づかせることができた。
- ・ まとめの内容は、子どもたちに考えさせた。「道のりも時間もちがうときは、」の次の文言として、「1kmあたりに～、1分あたりに～」と答える子と「単位量あたり」と答える子がいたので、両方をまとめるようにして板書した。
- ・ 発問がうまくいかなかったところがあり、板書できなかった内容がある。例えば、「道のりが同じなら時間が短い方が速い」という内容である。こうしたことをおさえていないと、あいまいに理解している子は本当に理解しているとは言えなくなってしまう。
- ・ 「1分あたりにかかった道のり」という言葉は正しい表現とは言えない。子どもの発言を修正しながら、「1分あたりに進んだ道のり」に板書すべきだった。
- ・ 自力解決の段階で、数直線を使って解決しようとしていた子どもがいたのだが、かき方を間違えていたので、数直線図のかき方を教師がおさえることで、振り返りができるようにした。
- ・ 子どもたちの中で「距離」と「道のり」の違いがはっきりしていなかったので、全体で確認をして黒板右上の図のようにかき加えた。

チェックシートで授業を振り返る。

子どもたちが目を輝かせて楽しそうに取り組む、教科の本質に基づいた力をつけることができる授業を目指したいものです。

右のチェックシートは、「授業をつくる16の視点（福島県授業改善研究会）」の中にあるものですが、活用しているでしょうか。学校の実態に応じて重点化・焦点化して活用することも大切です。客観的な視点で自分の授業を見つめ直し、教師自身の意識を変えることで「授業改善」につながっていきます。

県南域内のある高校では、「相互授業参観」を実施しており、教師同士が授業を見て気がついたことを伝え、授業改善に生かしています。小・中学校だけでなく、高校でも教師の指導技術を高めようという意識が高くなっています。

以前、ある小学校で指導技術に関するテーマ（発問や板書等）を設定し、他の学級の教員が15分だけ授業を見合う「15分観察授業」を日常的に実施しているところがありました。また、今年度ある中学校では、校内授業研究会に教科担当だけでなく他の教科担当も加わり、多様な視点から授業分析を行っていました。全職員で指導技術を高めようという意識が高ければ、必ず授業も変わっていきます。そして、継続的な実践を行うことで「学力向上」につながります。学期の節目に今一度、授業や研修の進め方を見直してみましょう。

～ 授業を振り返るためのチェックシート ～

- 1□ 子ども全員がねらいに到達できていたか。
- 2□ めあてはねらい達成のために適切だったか。
- 3□ めあては子どもの意欲を引き出し、追究価値があったか。
- 4□ 一人一人が自分の考えを持つ時間を確保できたか。
- 5□ 自力解決が早く終わった子どもへの指示はできていたか。
- 6□ 自力解決が不十分な子どもへの支援はできていたか。
- 7□ その後の授業や支援に生かす意図的機間指導ができていたか。
- 8□ 指示や発問は的確で明瞭だったか。
- 9□ 焦点化された内容を共有する活動はあったか。
- 10□ 共有の目的・内容・方法は適切だったか。
- 11□ 子どもの発言に真摯に対応したり、称賛したりできたか。
- 12□ 子どものつぶやきや考えを生かして進めていたか。
- 13□ 子どもが真剣に考える姿があったか。
- 14□ 共有したものを吟味し合う活動はあったか。
- 15□ 吟味した結果を自分の中で再構成する活動はあったか。
- 16□ ノート指導や記録の書かせ方は適切だったか。
- 17□ ねらいとまともは整合していたか。
- 18□ 子どもが自己の学びを振り返る活動はあったか。
- 19□ 単元における本時の位置付けを子どもは意識できていたか。
- 20□ 板書は計画的・構造的で文字や掲示資料は見やすかったか。
- 21□ 板書に本時の授業や思考の流れが表れていたか。
- 22□ 授業の時間配分はねらい達成に適切だったか。
- 23□ 本時の学習活動や手立てはねらい達成に有効だったか。
- 24□ 受容的態度や共感的態度、笑顔で(楽しんで)授業ができたか。
- 25□ 評価を適切に行い指導に生かすことができたか。